

ぼくらのせかい

～みんなみんな生きているんだ友だちなんだ～

高松市立国分寺北部小学校 担当教科/小学校全科

大西 結加

●実践教科: 図画工作・学級活動・国語 ●時間数: 5時間 ●対象学年: 小学3年生 ●対象人数: 35名

授業実践のねらい

- モンゴルに暮らす人々やそこで働く日本人について知り、親しむ。
- 世界の家のつくりについて関心をもち、工夫とその理由を意欲的に考えようとする。
- 世界の異文化を肯定的に受け止めて表現することを通して、自分のよさも相手のよさも大切にしようとする。

授業実践の構成

時間	テーマ・ねらい	主な学習活動	使用教材等
第1時	日本らしいお土産を作ろう	・モンゴルについて知っていること、知りたいことについて話し合う。 ・胤に日本らしい絵を描いてお土産を作る。	・世界地図 ・胤
第2時	モンゴルについて知ろう	・モンゴルに関する疑問の答えを聞く。 ・「だれでしょうクイズ」をする。 ・感想を書く。	・パワーポイント ・ワークシート
第3時	モンゴルについてもっと知ろう	・モンゴルのじゃんけんをする。 ・「だれでしょうクイズ2」をする。 ・モンゴルの人物へ手紙を書く。	・パワーポイント ・ワークシート
第4時	モンゴルの家のつくりについて知ろう(国語「世界の家のつくりについて考えよう」第4時として)	・モンゴルの家のつくりの工夫について説明文から読み取る。 ・写真や教師の話から、モンゴルの家のつくりの工夫について考える。	・写真 ・ゲルの模型 ・ワークシート
第5時	モンゴルの民話を読もう(国語「世界の民話を読もう」第6時として)	・馬頭琴の演奏を聴く。 ・「スーホの白い馬」の読み聞かせを聞く。 ・「民話のしょうかいカード」を作る。	・動画 ・馬頭琴の模型 ・絵本 ・カード

授業の詳細

第1時 日本らしいお土産を作ろう(図画工作)

まず、教師が夏休みにモンゴルへ行くことを知らせ、モンゴルについて知っていることと、知りたいことについて話し合った。朝青龍のふるさとだということと、モンゴル相撲については知っている児童もいたが、知らないことが多いことが分か

和田 加
報告書 ①

大西 結加
報告書 ②

杉田 亮介
報告書 ③

曾根 健介
報告書 ④

池田 やよい
報告書 ⑤

今村 加代子
報告書 ⑥

山崎 功子
報告書 ⑦

石原 康代
報告書 ⑧

った。疑問として、「人口は多いか」「野生動物はいるか」「どんな料理があるか」「どんな店があるか」等が挙がった。
次に、モンゴルの友だちへのお土産として、凧にどんな絵を描くか考えた。3~4人のグループで相談し、日本や香川県の名物を描いたり、毛筆で名前を書いたりして完成させた。

児童の反応

モンゴルの国旗見つけた！
このマークは何だろう？



国旗をよく見てかいてみたよ。



ぼくたちは東京スカイツリー!!

さめぎつとんや、国分寺町特産の盆栽もかいたよ。

【所感】
子どもたちは、教師の話に強い関心を示した。世界地図で位置を確認すると「意外と日本に近い」と声上がり、それだけでも親近感を持つきっかけになったようだ。凧作りにも意欲的に取り組み、改めて「日本らしさ」を考えることができた。総合的な学習の時間に扱った地域の特産物「盆栽」をかいたグループが多く、この町を誇りに思う気持ちが育っていると感じた。

第2時 モンゴルについて知ろう(学級活動)

【ねらい】
モンゴルに暮らす人々について知り、親しむ。

時間	学習活動	資料・準備物
導入 3分	○モンゴル語であいさつをする。 教師が民族衣装を着て登場し、「サインバイノー」とみんなであいさつする。 モンゴルの位置を確認する。	○世界地図
展開 10分	(1)第1時に出した疑問の答えを聞く。	○パワーポイント

	①モンゴルの人口は 約279万人 ↓ 約46倍! 日本…約1億2800万人	②どんな料理があるの 	③どんな家に住んでいるの? 草原では 
25分	<p>④どんな店? デパート、商店、市場(ザハ)</p> <p>⑤果物は? 日本と同じだがほとんど輸入</p> <p>⑥野生動物は? 牛、馬、羊、やぎなど(家畜としても)</p>	<p>④どんな店? デパート、商店、市場(ザハ)</p> <p>⑤果物は? 日本と同じだがほとんど輸入</p> <p>⑥野生動物は? 牛、馬、羊、やぎなど(家畜としても)</p>	<p>○パワーポイント</p>
展開	<p>(2)「だれでしょうクイズ」をする。</p> <p>写真に教師と一緒に写っている人物がだれか(何をしているか・どこに住んでいるか等)想像して3択から選ぶ。教師は答えを提示し、補足説明をする。</p> <p>①バスの運転手さん このバスに乗って移動したよ。日本車も多いよ。ウランバートルは大渋滞! だけど運転がとっても上手。</p> <p>②第97番学校のムンフー校長先生 日本の学校と似ているよ。でも校舎の中に信号があったり、50m走のコースがあったりしてびっくり!</p> <p>③モンゴル相撲の力士 ナーダムというお祭りですよ。日本の相撲と似ているね。弓矢もしたよ。手伝いの男の子とも撮ったよ。</p> <p>④ホームステイ先のアルヨンビティクちゃんとオモボゴくん 凧をととても喜んでくれたよ。折り紙やボール、シャガイで遊んだよ。お姉ちゃんは家畜を追う仕事をしているよ。</p>	<p>○ワークシート</p>	
まとめ	7分	○本時の感想を書く。	○ワークシート

児童の反応

- 日本より人口が少ないのに驚いた。
- 日本人と顔がなんとなく似ていた。
- いろいろな人が出てきて、何をしているか考えるのが楽しかった。
- 男の子は3歳まで髪を切らないので、女の子みたいに長くて驚いた。
- 動物の骨で遊ぶなんて驚いた。

和用 報告書 ①
大西 結加 報告書 ②
杉田 真貴 報告書 ③
吉野 根 健 報告書 ④
藤田 やよい 報告書 ⑤
立 令 報告書 ⑥
井 山 嶺 報告書 ⑦
石原 康代 報告書 ⑧

- 自分たちが作った凧を喜んでくれてうれしかった。
- モンゴルのことをもっと知りたい。

【所感】

教師がモンゴル人になりきって授業を進めたり、大型テレビでパワーポイントを提示したりしたことで、児童はとても楽しんでいました。また、モンゴルの友だちに凧が届いたことを実感し、より親近感をもったようだ。

3択のクイズ形式にすることで、普段の授業で自分の考えをもつのが苦手な児童も、写真から想像を広げ、自由に発言していた。日本と似ている部分も異なる部分も、初めて知った驚きを素直に表現しており、異文化との出会いは児童にとってプラスになると感じた。



第2・3時のパワーポイント表紙

第3時 モンゴルについてもっと知ろう(学級活動)

【ねらい】

モンゴルの生活やその背景に関心をもつとともに、そこで働く日本人について知る。

【展開】

	時間	学習活動	資料・準備物
導入	10分	(1)モンゴル語であいさつをする。 (2)モンゴルのじゃんけんをする。 勝ち負けの仕組みを知り、教師と(時間があればペアで)やってみる。	
展開	20分	(1)「だれでしょうクイズ2」をする。 写真に教師と一緒に写っている人物がだれか(何をしているか・どこに住んでいるか等)想像して空欄に当てはまる言葉を答える。教師は答えを提示し、補足説明をする。(四角囲みが空欄) ①水くみをしに来たお友だち 子どもたちも働き者だよ。これはみんなの水道。この地域の人はここに水をくみに来るよ。重たいタンクを上手に運んでいるね。 ②日本人のお墓を守っているネルウェイさん 戦争の後、モンゴルで亡くなった日本人がいることを初めて知りました。今はモンゴルの人がお墓を守っているよ。日本人もお参りにくるよ。 ③セイブ・ザ・チルドレンと一緒に遊んだお友だち 食べ物や着る物、住む所などに困っている子もいるよ。でも友だちや先生と話し合って解決していているよ。先生の中には日本人もいたよ。この男の子はこま回しがとてもうまくて、先生も教えてもらったよ。 ④青年海外協力隊としてボランティアをしている岡山さん この仕事をしている人は世界中にいるよ。その国の人と友だちになって、一緒に、その国をよくするためにがんばっているよ。	○パワーポイント 資料1
	5分	(2)4人のうち1人を選んで、思ったことを手紙形式で書く。	○ワークシート
	5分	(3)ペアで手紙を読み合う。	資料2
まとめ	5分	○本時の感想を書く。	○ワークシート

児童の反応

- ①水くみに来たお友だちへ
いつも水くみに来るのは、重くて大変だね。お手伝いをするのもすごいね。私はお皿洗いや配せんをするよ。これからはがんばってね。
- ②ネルウェイさんへ
お墓を見守ってくれてありがとうございます。戦争は、私たちが大人になっても絶対しません。
- ③セイブ・ザ・チルドレンのお友だちへ
こまがすごく上手だね。ぼくもやってみたいな。これからはみんなと仲良くしてね。
- ④協力隊さんへ
日本の人がいてびっくりしました。みんな頑張っていてすごいと思いました。

【所感】

前時よりも、モンゴルの実情に踏み込んだ内容のクイズを行った。同じ年頃の子もが水くみをしていることや、戦争後モンゴルで亡くなった日本人がいることなどを、真剣な表情で理解しようとしていた。とはいえ、授業によってモンゴルに対する偏見をもたせたくないという思いがあり、パワーポイントの中に意図的に教師の一言感想を入れたところ、墓地の管理人さんへの感謝や、セイブ・ザ・チルドレンの子どもの特技が印象に残り、手紙にも親しみのこもった表現が多く見られた。

課題は、児童から正解が出にくく教え込みが中心となってしまったことと、自分の生活と比べている児童の考えを、十分に広められず、学習の深まりが不十分だったことだ。導入のじゃんけんは好評で、しばらくの間帰りのあいさつに取り入れて楽しんだ。

資料2



第4時 モンゴルの家のつくりについて知ろう(国語)

【ねらい】 モンゴルの家のつくりについて、筆者の観点に沿って読み取ることができる。

【展開】

	時間	学習活動	資料・準備物
導入	5分	(1)モンゴル語であいさつをする。 (2)草原やゲルの写真から情景を想像し、本時のめあてを確認する。	○写真
展開	2分	(1)本文を音読する。	○「人をつつむ形—世界の家めぐり」 小松義夫
	15分	(2)モンゴルの生活について本文から読み取り、観点ごとに図にまとめる。 ①【材料】ほね組みは木。—なぜ→移動するとき、軽くて運ぶのに便利のため。 ②【気候】家のまん中にストーブがある。—なぜ→厳しい冬の寒さを凌ぐため。 ③【暮らし】水を手に入れやすく、草が生える所にたてられる。—なぜ→羊や馬を放牧して暮らしているため。	○ワークシート
開	15分	(3)絵や写真、教師の話から、文章では分からない部分を読み取り、観点ごとに図にまとめる。	○写真 ○ゲルの模型
		 	
		①【材料】フェルト→夏は風通しのためめくることができる。	
		③【暮らし】ソーラーパネル→電気製品も少しずつ増えている。	

	3分	(4)図を使ってペアの友だちに説明する。	
まとめ	5分	○本時の振り返りを書く。	

展開	10分	(1)「スーホの白い馬」の読み聞かせを聞く。	○絵本
	20分	(2)「民話のしょうかいカード」を作る。	○カード
まとめ	8分	○世界地図のモンゴルにシールを貼り、世界の民話を読む意欲を高める。 今後読んだ民話の国にシールを貼っていく。	○世界地図 ○シール

児童の反応

モンゴルの家は、夏はフェルトをめぐって風をたたくていて、冬は馬ふんをねんりょうにしたストープであたたかくなっているのがわかりました。もけいは、ゲルを小さくして中かぶった。あるのかかわりませんでした。本当にはね組は木でできたのがわかりました。モンゴルに行きたいです。

モンゴルの家は、夏はフェルトをめぐって風をたたくていて、冬は馬ふんをねんりょうにしたストープであたたかくなっているのがわかりました。もけいは、ゲルを小さくして中かぶった。あるのかかわりませんでした。本当にはね組は木でできたのがわかりました。モンゴルに行きたいです。

モンゴルの家は、夏はフェルトをめぐって風をたたくていて、冬は馬ふんをねんりょうにしたストープであたたかくなっているのがわかりました。もけいは、ゲルを小さくして中かぶった。あるのかかわりませんでした。本当にはね組は木でできたのがわかりました。モンゴルに行きたいです。

【所感】

国語科のねらい「写真や絵が、文章にはない情報を伝えることがあることに気付かせる」「経験や知識なども取り入れながら読み取らせる」に迫るために、研修中に撮った写真や、現地の方に聞いた話がたいへん効果的だった。児童は「中に吊るしたひもに洗濯物も干せそう」「馬ふんを使ってエコだ」などと、考えを膨らませていた。また、ホームステイ先の家族との写真から、「部屋が1つだと家族の絆が深まる」という意見にまで達したことは成果だった。

モンゴルの授業が盛り上がったことで、教材でこの後に登場するチュニジア・セネガルの家にも関心をもって学習を進めることができた。



これは便利!現地で買ったゲルの模型

児童の反応

「スーホの白い馬」の読み聞かせを聞いた後、児童が作成した「民話のしょうかいカード」の一例を示す。カードには、モンゴルの民話「スーホの白い馬」の概要が簡潔にまとめられており、イラストも添えられている。



【所感】

読み聞かせの前に馬頭琴の演奏を見たり模型を触ったりして、楽器そのものに興味をもったことが、民話の内容への興味、理解につながった。

第5時 モンゴルの民話を読もう(国語)

【ねらい】

世界の民話に親しみ、おもしろさを味わう。

【展開】

	時間	学習活動	資料
導入	7分	(1)モンゴル語であいさつをする。 (2)馬頭琴の演奏(第97番学校の先生による)を鑑賞する。 馬頭琴にまつわる民話であることを知る。	○馬頭琴の模型 ○動画

番外編 図画工作、読書週間での取り組み



図工「くぎうちトントン」で見本として作ったビー玉転がしゲーム。ビー玉が通過した国の言葉で「ありがとう」を言う。



読書週間の取り組み(先生による読み聞かせ「お話レストラン」)で、「世界の子どもの暮らし」のモンゴルのページを紹介。

授業実践を終えて(成果と課題)

報告させていただいたこれらの授業は、子どもたちの好奇心の強さに私が動かされて出来上がったように思う。

最初は場所さえ知らなかったモンゴルにどんどのめり込み、目を輝かせながら学ぶ子どもたちを見て、国際理解教育の魅力を感じた。実践にあたって最も配慮したことは、日本との違いを否定的に捉えないようにすることだった。教師が進んでモンゴルのよさを伝えることで、異文化とプラスの出会いをすることができた。人権教育の視点からも、違いを認め、相手のよさを大切にすることをさらに育てたい。

一方で、授業を構成するにあたって、自分の生き方について考える活動を位置付けることが課題である。全体的に「知る」ことが中心となったが、第3時にモンゴルの人へ書いた手紙を読むと、この子たちならもっと、自分自身について考えを深められるのではないかという可能性を感じた。

最後に、教師が「モンゴル人の先生」の設定を貫き、BGMに「ボクラノセカイ」を流し、雰囲気作りに力を入れたことで、この単元は学級の思い出の1シーンとなった。この楽曲は後に、法務省によって人権週間PRソングにも採用された。歌詞に次のような一節がある。子どもたちを、胸を張ってこう言える人に育てていきたい。「ぼくらの世界 君の正解 それぞれあるけど それが素晴らしい!」

資料

資料1 <抜粋>



参考資料

【書籍】

- ・「人をつつむ形—世界の家めぐり」小松義夫
- ・「木かげにごろり」金森襄作
(以上「新しい国語三下 指導編・研究編・ワークシート編」東京書籍 より)
- ・「スーホの白い馬」大塚勇三 再話 赤羽末吉 絵 福音館書店 1967
- ・「写真でみる世界の子どもたちの暮らし —世界31か国の教室から—」
ペニー・スミス、ザハヴィット・シェレイブ 著 赤尾秀子 訳 あすなる書房 2008

【音楽CD】

- ・「ボクラノセカイ」G20+ネブ&イモト 株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメント